記者が大分市議会の取材を通して感じたことを書いたコラムです。読んでみよう。

議会傍聴席から　記者の目

コロナ、長期戦に備えを

【大分】議場が改修工事で使えなかった大分市議会6月定例会は、新型コロナウイルス感染予防のため、さまざまな対策を施して審議を進めた。記者席と傍聴席は別室になり、モニター越しの議論からは新型コロナ対応に苦闘する様子がうかがえた。

一例は一般質問のやりとり。井手口良一氏（おおいた民主ク）がコロナ禍での救急救命体制をただした。新型コロナと夏季に相次ぐ熱中症などとの判別が主眼の一つだった。

消防局の担当者は「全救急車に医学的教育を受けた救急救命士を1人以上配置し、呼吸器症状や味覚障害、陽性患者との接触歴などを問診し判断する」と答弁。加えて、救急隊で難しい場合は医師に相談したり、画像転送システムを利用することを説明した。

市などは新型コロナ感染の疑いがある人に、まず電話で医師の問診を受けるよう呼び掛けている。ただ、容体によっては救急車を利用せざるを得ない人もいるだろう。医療や保健衛生の分野と同じく、患者と接触する最前線の試行錯誤は尽きない。

冬季にはインフルエンザの流行も想定される。新型コロナとの長い闘いに備えるため、救急救命体制だけでなく、日常生活や市議会運営のスタイルなど再考すべき課題が解決に向かうよう、市議会の真摯（しんし）な議論を聞き続けたい。（是永桂一）

2020年7月9日付　大分合同新聞14面

①大分市議会6月定例会で、記者席と傍聴席が別室になったのはなぜですか？

新型コロナウイルス感染予防のため。

②市議会の議論を通じ、記者が「うかがえた」としているのはどんなことですか？

新型コロナ対応に苦闘する様子。

③コロナ禍での救急救命体制（新型コロナと熱中症などとの判別）に関する議員の質問に、消防局の担当者は何と答弁しましたか？

「全救急車に医学的教育を受けた救急救命士を１人以上配置し、呼吸器症状や味覚障害、陽性患者との接触歴などを問診し、判断する」

④見出しの○○○を埋めてください。ヒントは記事の終りの方にあります。

長期戦